



特産果樹生産情報第5号
(8月1日～9月1日)

令和8年7月31日発表
青森県「農林水産力」強化本部

夏季管理の徹底と適期収穫を！
夏場の病虫害防除の徹底を！
高温対策及び風害防止対策を万全に！

I 要 約

- 露地ぶどうは、適正着果及び過繁茂防止に努める。
- 無加温ハウスぶどうは、品種特有の着色や糖度などで総合的に判断し、適期収穫に努める。
- もも、なしは、徒長枝の整理や支柱入れ、枝吊りを行う。
- ももは、果実の着色や地色の抜け、硬さなどを総合的に判断し、適期収穫に努める。
せん孔細菌病の枝病斑は、見付け次第枝ごと切り取り、被害果実も見付け次第摘み取って、適切に処分する。
- シンクイムシ類、カメムシ類、ハダニ類や西洋なしの輪紋病、黒斑病など病虫害の発生動向に十分注意し、適正な防除に努める。
- 高温による日焼けや乾燥対策、台風等に備えた風害防止対策を万全にする。
- 農作業中の熱中症に十分注意する。1人での作業をできるだけ避ける。

ツキノワグマ出没警報発令中！

〔 農作業の際は、ラジオを携帯するなどツキノワグマによる人身被害の防止に努める。 〕

II 特産果樹生産情報

1 生育概況

- ・ぶどう「キャンベル・アーリー」の落花日は、五戸（りんご研究所県南果樹部）で平年より7日早かった。
- ・もも、西洋なしの果実肥大は、五戸で7月30日現在、平年を上回っている。

○ぶどうの生育ステージ

（7月31日現在）

品種	場所	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
スチューベン	五戸	本年	4.26	5.4	6.12	6.16	6.25
		平年	4.30	5.12	6.21	6.23	7.1
		前年	5.1	5.10	6.18	6.21	6.28
	黒石	本年	4.20	4.30	6.9	6.11	6.23
		平年	4.28	5.8	6.16	6.19	6.28
		前年	4.25	5.7	6.16	6.18	6.27
キャンベル・アーリー （露地）	五戸	本年	4.22	5.2	6.10	6.12	6.18
		平年	4.27	5.11	6.18	6.20	6.25
		前年	4.25	5.7	6.16	6.18	6.23
シャインマスカット （簡易雨よけ）	五戸	本年	4.27	5.4	6.18	6.22	6.27
		平年	4.30	5.12	6.26	6.29	7.2
		前年	5.3	5.11	6.22	6.25	6.29
シャインマスカット （露地）	黒石	本年	4.22	5.5	6.17	6.19	6.23
		平年	5.1	5.11	6.23	6.26	6.30
		前年	5.2	5.12	6.22	6.24	6.26

注1）場所の五戸はりんご研究所県南果樹部、黒石はりんご研究所、以下同様。

注2）平年値は2006～2025年（20年間）の平均。ただし、「シャインマスカット（簡易雨よけ）」の発芽日は2013～2025年（13年間）、展葉日は2012～2025年（14年間）、開花日、満開日、落花日は2011～2025年（15年間）、「シャインマスカット（露地）」は2009～2025年（17年間）の平均。

○もも、西洋なしの果実肥大

（7月30日現在、横径cm、％）

地域	樹種（品種）	本年	平年	前年	平年比
五戸 （県南果樹部）	もも（川中島白桃）	5.7	5.3	6.0	108
	西洋なし（セネラル・レクラーク）	6.6	6.0	6.4	110

注1）平年値：ももは2009～2025年（17年間）の平均、西洋なしは2006～2025年（20年間）の平均

2）ももの横径は縫合線を挟んだ最大径（側径）

2 作業の重点

(1) ぶどう（露地栽培）

ア 結果枝の管理

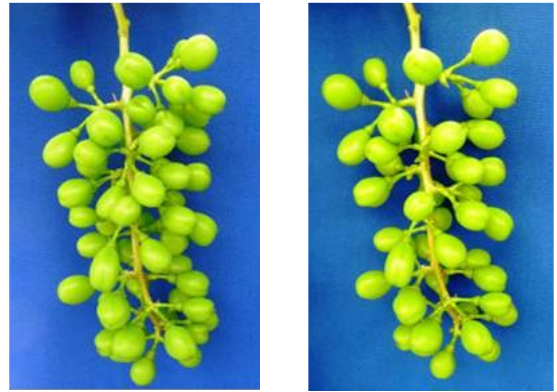
葉数は着色が始まる頃までに20～25枚確保する。新梢は着色後わずかに伸長する程度が望ましいが、その後もかなり伸びる場合は随時摘心する。

結果枝が混んでいる場合は、摘梢や誘引を行い、過繁茂防止に努め、果房や結果枝の基部葉まで日光が十分に当たるようにする。

イ 摘粒

8月上旬頃（果粒軟化期前）には終える。

品種別の摘粒の目安は次表のとおりである。小粒果やさび果などの障害果のほか、果粒が外向きに並ぶように内側に向いた果粒を除去し、目安の果粒数にする。



シャインマスカットの摘粒前後の果房
(左：摘粒前、右：摘粒後)

品種別目標果房重と果粒数（摘粒の目安）

品種	果房重 (g)	1粒重 (g)	果粒数 (粒)
スチューベン	300	4.0	70～80程度
キャンベル・アーリー	300	5.5	50～60程度
シャインマスカット	450～550	12～13	40程度

ウ 袋かけ（シャインマスカット）

品質向上やかすり症の軽減対策として、果粒軟化期以降に袋かけを行う。

袋はぶどう用又はシャインマスカット専用の袋を使用する。

袋かけは摘粒と薬剤散布を済ませてから行い、袋は収穫時まではずさない。

エ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布

キャンベル・アーリー基準

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 ／10 a
8月上旬	ストロビードライフロアブル 2,000倍 又はホライズンドライフロアブル 2,500倍	—	250ℓ

注1) 展着剤は使用しない。

注2) ストロビルリン単剤のアミスター10フロアブルとストロビードライフロアブル及び同じ系統の混合剤であるホライズンドライフロアブルは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ストロビルリン単剤は年1回以内の使用とする。

スチューベン基準

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 ／10 a
8月上旬	アミスター10フロアブル 1,000倍 又はストロベートドライブフロアブル 2,000倍 又はホイズントドライブフロアブル 2,500倍	—	250ℓ

注) キャンベル・アーリー基準と同様。

シャインマスカット基準

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 ／10 a
8月上旬	アミスター10フロアブル 1,000倍 又はストロベートドライブフロアブル 2,000倍 又はホイズントドライブフロアブル 2,500倍	—	250ℓ
8月中旬	レーバスフロアブル 3,000倍	—	250ℓ

注) キャンベル・アーリー基準と同様。

(イ) ベと病対策 (スチューベン、シャインマスカット)

発病葉や発病果房は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

排水不良園では、排水溝を掘って、雨水が長く溜まらないようにする。

スチューベンで、例年秋季に葉での発生の多い園地では、「8月中旬」にレーバスフロアブル3,000倍を特別散布する。レーバスフロアブルは薬剤耐性発達の懸念があるので、年1回の使用にとどめる。

シャインマスカットで、長雨が見込まれ、発生が懸念される場合は、袋かけ後の8月下旬に、ランマンフロアブル2,000倍、ライメイフロアブル4,000倍、I C ボルドー66D50倍のいずれかを特別散布する。ランマンフロアブルとライメイフロアブルは同じ系統の薬剤であり、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とし、連続使用しない。また、I C ボルドー66Dは果面の汚れが発生するため、散布は必ず袋かけ後に行う。

(ウ) 晩腐病対策

発病果粒や発病果房は見つけ次第摘み取って、適切に処分する。園地内の排水や風通しを良くし、過湿にならないようにする。

(エ) 灰色かび病対策

新梢の摘心や誘引を適切に行い、園地内の風通しを良くする。発病葉、発病果及び発病枝はできるだけ早く取り除き、土中に埋めるなどの処分をし、他へ伝染しないようにする。

長期貯蔵向けの場合、スチューベンでは「8月下旬～9月上旬」に、シャインマスカットでは袋かけ前の「7月下旬～8月上旬」にフルーツセイバー1,500倍を特別散布する。フルーツセイバーは薬剤耐性発達の懸念があるので、年1回の使用にとどめる。シャインマスカットの袋かけは薬液が乾いてから行う。

(オ) チャノキイロアザミウマ対策（シャインマスカット、袋かけ前）

発生が懸念される園地では、大豆粒大（7月中旬頃）の散布後から袋かけ前まで10日間隔で防除剤を特別散布する。

「8月上旬」及び「8月中旬」の防除剤は、ディアナWD G10,000倍又はデリゲートWD G10,000倍とする。薬剤散布後、薬液が乾いてから速やかに袋かけを行う。

(2) ぶどう（無加温ハウス）

ア ハウス内の温度管理

外気温が30℃を超える日は光合成能力が著しく低下し、果実の日焼けなど高温障害の発生が懸念されるので、ハウスのサイド、妻及び屋根の谷間を巻き上げるなどして換気する。

イ 収 穫

収穫は品種特有の着色を示し、芳香を放ち、食味も良くなり固有の風味に達してから行う。収穫時の糖度は、キャンベル・アーリーでは14%を目安とする。

キャンベル・アーリーは着色が良いため、低糖度の果房や未熟果が収穫されがちなので、果皮色が紫黒色となり、果粉に覆われ品種固有の食味に達してから収穫する。

<収穫時の留意事項>

(ア) 朝夕の果実温度の低い時間帯に収穫する。

(イ) 完熟果でも降雨があった直後は糖度が低下し、輸送中の腐敗も多くなるので、なるべく晴天時に収穫する。

(ウ) 脱粒したり果粉が落ちたりするので、穂軸を持って丁寧に扱う。

(3) も も

ア 徒長枝の整理、支柱入れ、枝吊り

樹冠内部を明るく保つため、太枝の背面や先端部から伸びた生育が旺盛な徒長枝は除去する。日焼け対策として残す場合は、5～10cm程度の長さで、葉芽を残して切り取る。

果実の肥大とともに、枝が下がり、重なり合ってくるので、支柱入れや枝吊りを行う。

イ 着色管理

十分な新梢管理や支柱立て、枝吊りなどを行ってから、果実に直接かぶさっている葉を数枚摘み取る。摘み取り過ぎると、外観や品質の低下を招くので注意する。

反射資材を敷くと、樹冠内の光環境が改善され、着色向上に役立つが、着色が先行するため、未熟果を収穫することのないよう、収穫適期の見極めには十分注意する。

反射資材の敷設時期は、無袋栽培では収穫予定日の7～10日前、有袋栽培では収穫予定日の10～14日前（除袋2～3日後の果実の先端部が少し着色し始めた頃）を目安にする。早すぎると着色が先行し、未熟果を収穫する恐れがあるが、天候不順が予想される場合は早めに行う。

ウ 除 袋

除袋の適期は概ね収穫の10～14日前頃である。

除袋時期の目安は、果実が品種本来の大きさになり、果皮が全体的に白みがかかり、地色が5～6割抜けた（果梗部と縫合線周辺に青みが残る）頃とする。天候不順が予想される場合は2～3日早める。

除袋後は果実に直接かぶさっている葉を摘み取る。

エ 収 穫

果実の着色や地色の抜け、手触りなどを総合的に判断し適期に収穫する。日当たりの良い南側や西側の主枝・亜主枝先端の大玉の果実ほど早く熟し、樹冠内部は遅れる。樹全体で見た場合、収穫期間には10日程度の幅があるため、収穫は数回に分けて行う。

収穫は地色が淡黄緑色になり、着色の良いものから始める。収穫時の糖度は早生種で10%、中生種で11%、晩生種で12%を目安とする。果実の硬さは、手のひらで押さえた時にわずかに弾力を感じ、指で軽く押さえても跡がつかない程度がよい。

収穫直前に高温の日が続くと熟期が早まるので、こまめに収穫適期を判断する。

オ 病虫害防除

（ア）薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 ／10 a
8月上旬	ベルクトフロアブル 2,000倍 又はストロートライフフロアブル 2,000倍 又はナリアWDG 2,000倍	ダイジノ水和剤 1,000倍 又はダントツ水溶剤 2,000倍 又はジノテフラン剤 2,000倍 又はテラスターフロアブル 3,000倍	400ℓ
8月中旬	ロブラル水和剤 1,500倍 又はDMI剤	モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍	400ℓ
8月下旬	ストロートライフフロアブル 2,000倍 又はナリアWDG 2,000倍	モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 又はジノテフラン剤 2,000倍	400ℓ
9月上旬	ロブラル水和剤 1,500倍 又はDMI剤	—	400ℓ

注1）ジノテフラン剤：スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤

2）DMI剤：インダーフロアブル5,000倍、アンビルフロアブル1,000倍、スコア顆粒水和剤2,000倍、オンリーワンフロアブル2,000倍

3）ロブラル水和剤とDMI剤は、薬剤耐性発達の懸念があるので、それぞれ年1回の使用にとどめる。

4）ダントツ水溶剤は、使用時期が「収穫7日前まで」なので、早・中生品種に散布する場合、十分注意する。

(イ) せん孔細菌病対策

薬剤散布と耕種的防除を組み合わせた総合的防除を徹底する。なお、風を強く受ける地帯で多発するので、防風対策は必ず行う。

枝病斑は重要な伝染源なので、見つけ次第切り取り、適切に処分する。被害果実も見つけ次第摘み取って適切に処分する。



せん孔細菌病の夏型枝病斑

(ウ) シンクイムシ類対策

幼虫が果実から脱出する前に被害果を採取し、7日間以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。被害果をそのまま放置すると次世代の発生源となるので、必ず処分する。

ナシヒメシンクイによる新梢の芯折れは見つけ次第切り取り、適切に処分する。

(エ) カメムシ類対策

断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊は見つけ次第つぶす。ふ化幼虫は分散する前に捕殺する。

発生が見られる園地では、「8月上旬」にダントツ水溶剤、ジノテフラン剤、テルスターフロアブルのいずれかを選択する。



チャバネアオカメムシ卵塊



チャバネアオカメムシふ化幼虫

(4) な し

ア 徒長枝の整理、支柱入れ、枝吊り

樹冠内部を明るく保つため、徒長枝は、将来、結実枝として使用するもの以外は、枝の基部から除去する。

果実の肥大とともに、枝が下がり、重なり合ってくるので、支柱入れや枝吊りを行う。

イ 収 穫

(ア) 西洋なし

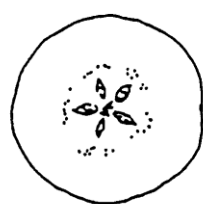
収穫時期が早過ぎると追熟が正常に進まず硬いままであり、遅過ぎると内部褐変などが発生するため、適期に収穫する。収穫適期は気象に大きく左右されるので、満開後の日数、ヨードでんぷん反応、地色などの状況から総合的に判断する。

早生品種の満開日からの日数による収穫始めの目安

品種	満開日から収穫 始めまでの日数	ヨードでんぷん 反応指数	地色指数
プレコース	110日	4～4.5	2～2.5
パートレット	125日	3～3.5	2～2.5

注1) ヨードでんぷん反応指数：下図参照

2) 地色指数：「日本なし地色用カラーチャート」を使用し、ていあ部（果実の尻の部分、下図参照）のコルク層を薄くはぎ、変色しないうちに比色する。



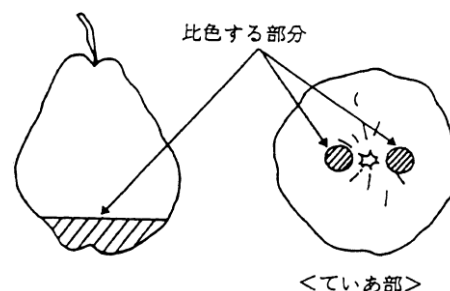
0 : 100%でんぷん消失



1 : 90%でんぷん消失



2 : 70%でんぷん消失



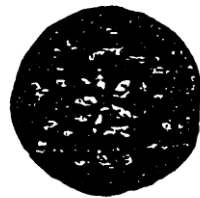
<ていあ部>



3 : 50%でんぷん消失



4 : 30%でんぷん消失



5 : ほとんど染色

地色の見方（ていあ部）

ヨードでんぷん反応指数（でんぷんの消失割合）

(イ) 日本なし

収穫適期は糖度や果皮の地色からも判定できるが、食味で判定するのが最も簡便かつ正確である。ジベレリンペーストを使用した場合、成熟期は5～7日くらい早まる。

イ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布（西洋なし）

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 ／10 a
8 月上旬	オキシジン水和剤 500倍 又はベルクト水和剤 1,000倍 又はトップジンM水和剤 1,500倍	ダイゼン水和剤 1,000倍	450ℓ
8 月中旬	ストロビートライフロアブル 2,000倍 又はナリアWDG 2,000倍	テスター水和剤 1,000倍	450ℓ
8 月最下旬	キャブレート水和剤 600倍 又はトップジンM水和剤 1,500倍	ジノテフラン剤 2,000倍	450ℓ

注1) ジノテフラン剤：スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤

2) ストロビルリン単剤のストロビードライフフロアブル及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。

3) プレコースやゼネラル・レクラークなどの早・中生品種に散布する場合、収穫前日数に注意して薬剤を選択する。

4) トップジンM水和剤を使用する場合はキャブレート水和剤を使用しない。キャブレート水和剤を使用する場合はトップジンM水和剤を使用しない。

(イ) 輪紋病対策

樹勢が衰えると枝幹が被害を受けやすくなるので、樹勢を適正に保つ。発病枝は伝染源となるので、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

ゼネラル・レクラークやラ・フランスなどの中・晩生品種では「8月最下旬」も重要な防除時期になるので、必ず薬剤散布を行う。

(ウ) 黒斑病対策（ゼネラル・レクラーク）

徒長枝は発生源となりやすいので、不要なものは夏のうちに切り取る。

発病果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(エ) シンクイムシ類対策

幼虫が果実から脱出する前に被害果を採取し、7日間以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。被害果をそのまま放置すると次世代の発生源となるので、必ず処分する。

(オ) カメムシ類対策

断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊は見つけ次第つぶす。ふ化幼虫は分散する前に捕殺する。

(5) おうとう

ア 追肥（礼肥）

追肥が済んでいない園地では速やかに行う。

施用量は成木（11年生以降）で10 a 当たり窒素3.0kg、リン酸1.2kg、カリ2.4kgを目安とする。施肥量は土壌条件や樹勢によって加減する。

イ 病虫害防除

（ア）ハダニ類対策

発生が多い場合は、マイトコーネフロアブル1,000倍、コロマイト乳剤1,000倍、カネマイトフロアブル1,000倍のいずれかを散布する。

（イ）ウメシロカイガラムシ対策

発生の多い樹では、8月上旬～中旬（幼虫ふ化最盛期）にアプロードフロアブル1,000倍を特別散布する。

(6) うめ・あんず

ア 追肥（礼肥）

収穫後に標準施肥量の20％を施用する。施用量は成木（9年生以降）で10 a 当たり窒素2.8kg、リン酸1.2kg、カリ2.0kgを目安として施用する。施用量は土壌条件や樹勢によって加減する。

イ カイガラムシ類対策

発生の多い樹では、8月上旬～中旬（幼虫ふ化最盛期）にアプロードフロアブル1,000倍を特別散布する。

(7) 核果類のコスカシバ対策（おうとう、もも、うめ、あんず、すもも、ネクタリン）

生育期に枝幹部や地際部に樹脂（ヤニ）又は虫糞の発生が見られる場合は、削り取って幼虫を捕殺あるいは刺殺する。もしくは、虫糞を取り除き、ロビンフッドのノズルを孔に差し込み、薬液を噴射する。

(8) 各樹種共通

ア 高温・乾燥対策

高温が続く、降水量が少なく、園地の乾燥が予想される場合は、早めにかん水を実施する。また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

果実の日焼け等の高温障害、花芽分化への影響を低減するため、積極的に各種資材による遮光等の対策をとる。

高温による着色の遅れに伴い収穫時期が遅れ過熟とならないよう、糖度や食味等の確認をしつつ適期収穫に努める。

収穫は、果実温が高い日中を避けて行い、収穫した果実は速やかに冷蔵庫に入れるか、日陰に置くなど鮮度保持に努める。

イ 徒長枝整理

徒長枝の繁茂は、樹冠内部の採光や風通しを悪化させ、病虫害の増殖場所となるだけでなく、樹形を乱す原因となるので、不要な徒長枝は早めに剪去する。

ウ 風害防止対策

台風の接近や強風に備え、防風網を再度点検し、補強や取り替えを行う。

幹や主枝などに空洞が生じている樹、雪害を受けた樹や枝は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

ハウス施設では、施設の点検補修を行うとともに、マイカ線や支柱などで補強する。ハウスの強度を上回る強風が吹く可能性がある場合には、早急に天窓、サイドの喚起部分を全開にするとともに、天井や妻の被覆資材をはずして風がハウス内を抜けるようにする。

青森県農薬危害防止運動展開中（6月～8月）！

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用に当たっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせるようにしましょう。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布しましょう。

《 熱中症対策を行いましょう！ 》

◎熱中症予防運動を展開中です（6月1日～8月31日）

熱中症による緊急搬送者が近年増加傾向にあります。1人での作業をできるだけ避け、こまめな休憩をとり、水分・塩分補給を行い、熱中症を予防しましょう。

◎労働者への熱中症対策が義務化（罰則あり）されています

昨年6月に労働安全衛生規則が改正され、労働者を雇用する全ての事業者に対して、熱中症対策が義務付けられました。

熱中症対応フローなど必要事項を記載した「張り紙」を事務所等に掲示しましょう。

「張り紙」のひな型については、青森県農業・就農情報サイト「農なび青森」に掲載しています。



《 ツキノワグマ出没警報発令中！！（４月20日～11月30日） 》

- ・ 1人での作業をできるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。
- ・ 果実等の収穫残さや弁当の空容器などは、クマを引き寄せる原因となるため、農地に放置せず、適切に処理しましょう。
- ・ 農地周辺の藪を刈払って見通しを良くすることで、クマの隠れ場所を無くし、クマが農地に近づきにくい環境を整えましょう。
- ・ 詳細は県ホームページをご確認ください。
(https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/kuma_cyuui.html)

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！ 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。
詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

《 農作業安全を心がけましょう！ 》

先日、りんご畑で草刈り機の下敷きとなり、農業者が死亡する事故が発生しました。農作業安全のポイントを意識しながら、「みんなで声がけ！安全確認」を心がけ、安全第一で農作業事故をなくしましょう。

山火事など火災の発生防止に努めましょう！

次回の「特産果樹生産情報」第6号は9月1日（火）発表の予定です。

連絡先：りんご果樹課生産振興グループ
電話番号：代表 017-722-1111
内線 5144、5149
直通 017-734-9492